



1日約2,000台が行き来する当院駐車場。昨年11月より駐車場システムをリニューアルいたしました。

診療科紹介 update

Vol.3 外科(乳腺・内分泌)

明日を担う Vol.10

・吉原 涼子(薬剤師)

TOPICS

- ・腎臓移植
-当院に認定レシピエント移植
コーディネーターが誕生しました!-
- ・機能評価を終えて
- ・第105回北米放射線学会
(RSNA 2019)に参加して
- ・OSCEを終えて
- ・長崎医療センター研修医同窓会
「あかしや医師の会」第4回総会開催される
- ・春の医学生見学会

雲仙普賢岳大火砕流で被災した患者の
主治医となった研修医

Vol.1「1冊の本」

看護部だより Vol.18

地域医療連携室からのお知らせ

長與 専齋 (1838年~1902年)

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめ採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。



外科(乳腺・内分泌)

乳腺・内分泌外科の特徴

1. 県下有数の乳がん症例数
2. 多職種によるチーム医療
3. 甲状腺の鏡視下手術
4. 全国レベルの臨床研究推進

スタッフおよび施設認定



当院外科はスタッフ9名、レジデント1名で構成されています。

その中で乳腺・内分泌外科は、当院赴任13年目を迎える前田茂人医長、本年度から新たに加わった山之内孝彰医長の2人の専門医により日々の診療を行っております。

当センターは、日本乳癌学会認定施設、日本内分泌外科学会認定施設、日本甲状腺外科学会認定施設、鏡視下甲状腺手術認定施設であり、患者さんには専門的な標準治療を、医師にはスペシャリスト育成の場が提供可能です。

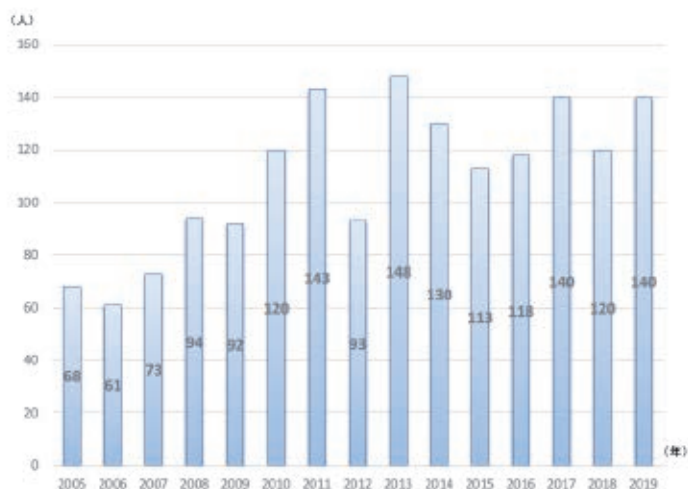
個々の患者さんに寄り添った医療

日本では乳癌と診断される患者さんは年々増加しており、女性は生涯に11人に1人が乳癌に罹患するとされています。当センターでも乳癌手術件数は増加しています(ちなみに、男性も乳癌に罹患しますが稀であり、乳癌患者さんの100人中1人程度です)。

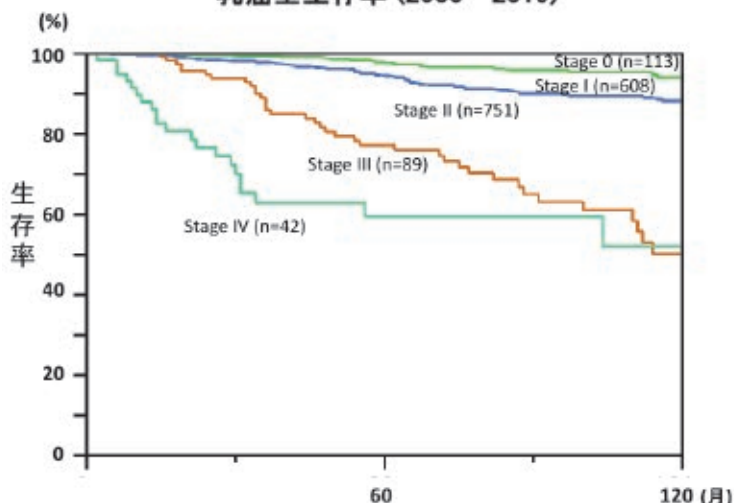
乳癌治療は、多くの場合手術だけでは終わらず、抗癌剤、分子標的薬、ホルモン剤、放射線治療などを組み合わせて行うのが一般的です。また、乳癌治療の特徴として長期に渡ると言えることが挙げられます。例えば、乳癌手術後の補助療法として、10年間のホルモン剤内服が推奨されています。さらに、年齢的に社会的および子育てなどの家庭的な役割を担

いつつ治療を継続されている患者さんが多いことが特徴です。そのため、乳癌診療は、放射線科、病理診断科、形成外科などの他科、さらに薬剤師、病棟看護師、外来看護師、外来化学療法看護師、がん認定看護師、ソーシャルワーカー、ドクターズクラーク等の多職種で、病気のみでは無く、患者さん個々に寄り添ったチーム医療を実践しています。当院の看護理念「その人がその人らしく」生きられるように、長崎医療センターで何ができるかを患者さんと一緒に考え、日々の診療を行っております。また、全乳癌の内5-10%を占める遺伝性乳癌に関する診療など、最新の医療を提供できるよう常に心掛けています。

乳腺手術数推移



乳癌全生存率 (2000~2019)



頸部に創が残らない鏡視下甲状腺手術

甲状腺の病気は若い女性に多い傾向があります。甲状腺の手術は元来頸部に手術創が残るため、美容上問題となることがありました。そこで、頸部に手術創を残さない内視鏡補助下甲状腺手術 (VANS) を導入し、当院は保険診療で行うことができる認定施設になっています。



臨床研究の推進

当科では全ての治療を、ガイドラインに準拠した標準治療、または臨床試験への参加を目指したものとしています。多くの場合は標準治療で治療できますが、時にはガイドラインに準じるだけでは治療法が限られる場合があります。臨床試験への参加は、全国レベルの医療提供や情報共有により、患者さんおよび施設へ資するがあると思われます。私たちは、JCOGをはじめとするいくつかの全国レベルの臨床試験、九州地区の臨床試験、および長崎大学と連携して臨床試験を進めています。

明日を担う

Vol.10

当院の“明日を担う”スタッフに、
work、life、そしてvisionを語ってもらいましょう。

薬剤師

よしはら

りょうこ

吉原 涼子

profile

出身地：福岡県

おすすめ?の本：アンサンブリングシンデレラ

病院薬剤師 葵みどり

※4月から石原さとみ主演でドラマ化されます!!



Q：薬剤師を目指したきっかけは何ですか。

A：高校2年の頃までは薬剤師になることなど思いもしていませんでした。小学6年から剣道をしてきたということもあり、体育の教員が警察官になるのかなと漠然と思っていました。しかし進学の際、母親から薬学部の道もあるよと薦められ、大学の見学に行き、実際のところは薬学部（薬剤師）がどんなものかあまり分からないまま進学しました。母親が検査技師をしていたこともあり、資格の取れる大学に行きたいという思いはずっと持っていたので、薬剤師を目指すことにしました。

Q：病院薬剤師としてどのような仕事をしていますか。

A：内服薬・注射薬の調剤や抗がん剤の調製の他、医薬品の管理、入院患者さんへの服薬指導、チーム医療への参加など多岐にわたります。現在は、循環器・心臓血管外科・呼吸器外科病棟での病棟薬剤業務と、救命救急センターでの投薬に関わる薬剤管理を行いながら、感染対策チームに参加しています。DMAT(Disaster Medical Assistance Team：災害派遣医療チーム)のメンバーとしても活動しています。

Q：チーム医療の中での薬剤師の役割は？

A：薬剤師の参加するチーム医療は、がん、緩和、感染症、褥瘡、NSTなど多岐に渡りますが、薬剤師は薬理学的な視点から医療を提供しています。現在参加しているICT(Infection Control Team：感染対策チーム)、AST(Antimicrobial

Stewardship Team：抗菌薬適正使用支援チーム)では、薬剤師の視点で自信をもって発言できるよう日々勉強中です。

Q：NHO(国立病院機構)でのキャリアパスは？

A：別府医療センターで5年、西別府病院で2年、長崎医療センターでは主任として5年目になります。急性期病院から慢性期病院への異動で、様々な経験を積むことができました。多施設を経験できることはメリットだと思います。病院の規模や特色によって採用薬も変わるので、新たな発見がたくさんあります。

Q：今後の目標を教えてください。

A：感染症薬剤業務に関してはスペシャリストを目指し、かつ総合力を養うジェネラリストでありたいと思っています。複数の診療科から処方された薬剤を多剤服用している患者さんがいる中で、各領域の薬剤に幅広く精通し、適切に治療に介入していきたいです。また、DMAT業務調整員の資格も持っているため、災害等有事の際には何か役に立てればと思います。

Q：地域薬剤師の方々と交流はあるのですか。

A：年間3～4回、地域の薬剤師の方々と勉強会をし、交流しています。現在は主に抗がん剤関連の勉強会をしています。レジメンが多様化しているので、勉強して情報交換をしていきたいと思っています。

聞き手：難治性疾患研究部長 小森 敦正

腎臓移植 - 当院に認定レシピエント移植コーディネーターが誕生しました! -

泌尿器科 錦戸 雅春

今回は認定レシピエント移植コーディネーター制度についてご紹介します。

腎臓移植は末期腎不全状態の移植希望から移植周術期、移植後の免疫抑制、長期維持期まで様々な状況にある患者さんのケアが必要です。それゆえ移植医だけでなく多くの診療科やコメディカルなど多職種によるチーム医療が重要になってきます。このような背景で、移植の全過程にかかわり、患者・家族への移植の意思決定支援や、円滑な移植過程の実施のための連絡・調整、チーム医療を実践するためのチーム内でのコミュニケーションの促進、移植後の生活指導や医学的管理を継続的に行う役割を担う職種として、2011年10月に日本移植学会認定レシピエント移植コーディネーター制度（以下Re.Co.と略す）が始まりました。さらに2012年より移植後患者管理指導

料（外来患者一人月300点）が設置され、移植専門外来、移植医や薬剤師の条件に加えて専任のRe.Co.が患者指導を行うことが要件となりました。現在暫定措置で研修参加でも可能ですが、早晚必須化され、今後腎移植実施移設の施設基準でもRe.Co.が必須条件となります。

今回泌尿器科外来看護師の濱村みどりさんが認定コーディネーターの資格試験に見事にトップ合格して、2019年10月日本移植学会総会で表彰されました。長崎県では3人目、腎では2人目となります。Re.Co.は今や移植医療にとって多職種連携の要として必要不可欠なもので、今後ますますの活躍が期待されます。病院経営にも貢献できると考えられ、症例の増加とともに病院として次の人材育成も期待したいと思います。

泌尿器科外来看護師 濱村 みどり

2012年に移植後患者指導管理料が新設された際、移植医療に興味を持っていた私に、当時泌尿器科部長の松屋先生から「ちょっと研修に行ってみれば?」と声をかけていただき、レシピエント移植コーディネーターの研修に参加しました。以後、移植希望で紹介された方へ、移植の概要についての説明、受診と検査の調整や、移植後の日常生活や服薬状況の確認、生活指導等を行っております。2017年、長崎大学病院より錦戸先生が赴任してこれ、血液型不適合移植も実施するようになり、最近では長崎県下

の多数の病院から移植の相談を受けています。現在、腎移植後フォローアップ外来では、腎臓内科、泌尿器科あわせて約70名の患者さんが通院されており、移植前、移植後と多くの患者さんと関わらせていただいています。今回松屋先生にご指導いただき、日本移植学会認定レシピエント移植コーディネーターの資格を取得しました。今後はさらに、移植後の患者さんはもちろん、腎代替療法の選択で悩んでいる方々が、移植医療について気軽に相談していただける窓口になれば、と思います。



病院機能評価の訪問審査を受審して

副院長 八橋 弘

2020年1月22日と23日の2日間、日本医療機能評価機構による病院機能評価の訪問審査を受審しました。昨年の5月に江崎院長がキックオフの宣言をされてから病院としての本格的準備をスタートさせました。6月のしょうぶフォーラムでは病院機能の問題点の抽出をおこない、秋以後は事前提出資料の作成、ポケットマニュアルの更新、ケアプロセス受審の練習など、コアメンバーが中心となって訪問受審の為の準備を着々とおこなってきました。

1月22日、病院職員全員が緊張した面持ちで、その訪問審査の朝を迎えました。サーバイヤーの先生方と対面する形で相互に自己紹介することから訪問審査が始まりました。初日の午後には、4つの病棟の病棟視察とケアプロセスの審査がはじまり、夕方と翌日の昼までに各部門へ視察審査がおこなわれました。サーバイヤーの方からの指摘や質問について、記録担当者はひとことも漏れ逃さないようにメモを取り、答弁担当者は、「ここで決して失言してはならない、ここは上手く乗り越えなければ」という緊張感を持って対応されたと思います。しかし実際の面接



では、サーバイヤーの先生方から細かく評価されつつも、その合間には親切なコメントと教育的指導をいただきながら、和やかな雰囲気での訪問審査は進んでゆきました。

2日目の夕方におこなわれた総評において、いくつかの不備な点、改善させないといけない点を指摘されましたが、私の印象では今回の訪問審査の評価は概ね良好であり、特にケアプロセスに関連したチーム医療、医療連携に関しては褒めていただいたように思います。

私は、今回の当院での病院機能評価のテーマは「つなぐ」にしたいと思っていました。横への「つなぐ」は患者を中心とした今の医療スタッフの連携を、縦への「つなぐ」は5年後の再審査を受ける後輩へのバトンタッチをイメージした次第です。病院機能評価は、審査の2日間だけおこなうのではなく日々の診療の中で生かしながら継続的にこなうべきものと考えていますが、訪問審査を無事終えたというのはひとつの節目になります。病院職員の皆さまに厚く御礼を申し上げます。



4A病棟看護師長 宅間 奈緒美

2020年1月22日と23日の2日間、病院機能評価(3rdG:Ver.2.0)の訪問審査を受審しました。

昨年の5月のキックオフ宣言、6月のしょうぶフォーラムを経て、7月に看護部の機能評価コアメンバーが決定し、その中でリーダーの役割を担うことになりました。リーダーになって最初に思ったことは「受審日まであと半年しかない!」ということでした。しかし、同時に「受審日は半年後に決定されているのだから、やるしかない!」と自分なりにリーダーを務める決意をし、コアメンバーの看護師長達に「旗をふるので、ついてきて欲しい」とお願いしました。それから、機能評価受審に向けての準備を開始しました。

まず、ケアプロセス審査に対し、解説集を読み解きながら、どのような視点で医療・看護が評価されるのかを整理しました。コアメンバーの看護師長達と一緒に各項目を読み解き、「ケアプロセス設問集」を作成しました。それをもとに、自部署のカルテを確認し、現状の把握と課題の抽出を行いました。時間をかけてカルテを確認することで、日々患者の希望や状態を考慮しながら清潔ケアを実施しているにも関わらず、きちんと記録に残っていないことや、医師のIC内容や患者の反応等の記載が不十分であること

等、自部署の傾向に気付くことが出来ました。模擬ケアプロセスは8月と12月に実施しました。12月の模擬ケアプロセスでは、より本番に近い形で実施出来るよう、診療部・事務部と協力し、進めていきました。

病棟概要確認においても、看護部で各病棟をラウンドしながら、改善点を抽出し、訪問審査に向けて環境整備や掲示物の整理等を行っていました。

このような準備期間を経て、訪問審査の当日を迎えました。緊張した面持ちの看護師長達でしたが、「やることはやってきたし、普段通りで大丈夫!」とお互いに励ましあい、2日間を終えました。2日目の総評では、改善すべき点等のご指摘も受けましたが、特にケアプロセスに関してはお褒めの言葉を頂いたように思い、安堵しました。

機能評価を終えて思うことは、1つの目標に向かって皆で走ってきたことで「人と人との繋がり」が強くなり、それが目標達成に向けて大きな力となったのではないかと思います。看護部の団結力の強さも感じました。ケアプロセスを通して、医療チームにおける多職種間の繋がりにおいても、教わるが多かったように思います。機能評価受審に向けていろいろと整備してきたことや看護の質を、これからも維持できるように頑張っていきたいと思います。



第105回北米放射線学会 (RSNA 2019)に参加して

放射線部 診療放射線技師 島本 惟



2019年12月1日～5日までの5日間、米国イリノイ州シカゴ市のマコーミックプレイスで行われた

RSNA2019に参加して

きました。この学会は、世界中の放射線科医師ならびに診療放射線技師による研究発表、教育講演が行われ、参加者は毎年6万人程度と放射線学会でも最大規模を誇ります。日本で行われる学会とは違い、会場内ではジャズライブや社交ダンスが行われ、新鮮な感覚となりました。私は「How to Utilize Metal Artifact Reduction for Single Energy and Dual Energy」というタイトルでCT検査における金属アーチファクト低減について、デジタルポスターによる教育展示部門で発表させていただきました。スライド作成は非常に苦慮しましたが、様々な国の先生方からお褒めのコメントをいただき、これまでの努力が報われる思いでした。この学会を通して、世界レベルの最先端の放射線医学や放射線技術に触れ、多



くの刺激を頂くことができ、ぜひ来年度以降もRSNAに参加したいという思いが強くなりました。

せっかくのシカゴですので、少しでも時間をいただき、おいしいものを食べ、いくつかの観光地を巡りました。また、趣味のカメラで日本では真似できない様な写真を撮影し、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

最後に、スライド作成にご尽力いただいた放射線部の皆様ならびに、学会参加のためにご支援いただいた長崎医療センターの関係者皆様にごこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



TOPICS

OSCEを終えて

臨床研修医(2年次) 中谷 優

2020年2月1日に内科外来にて、2年次研修医を対象としてOSCE(客観的臨床能力試験)が行われました。心肺蘇生、外科処置、胸部Xp、心電図、身体診察の5項目を各科の先生方に評価いただきました。

試験1週間前頃から勤務終了後に同期と集まり、それぞれの項目をお互いに教え合いながら準備を進めました。普段は違う科でそれぞれの勉強をしている同期と、診察の手順や特徴的な所見を教え合い、有



意義な時間を過ごすことができました。

試験当日は普段通りを心がけましたが、緊張した雰囲気が流れ、実技試験ならではの珍プレーもいくつか見られたようでした。各ブースでは試験終了後に担当の先生方からフィードバックを頂き、自分の診療の仕方を見直すいい機会になりました。今回の試験を含め、初期研修2年間で学んだことを来年度以降の診療に生かしていこうと思います。

最後になりましたが、朝早くからご協力いただいた、指導医の先生方、教育センター、後輩の皆さんありがとうございました。

TOPICS

長崎医療センター研修医同窓会「あかしや医師の会」第4回総会開催される

あかしや医師の会事務局長 / 肝臓内科 長岡 進矢 (第27期生)

1月25日、当院人材育成センター あかしやホールにおいて長崎医療センター研修医同窓会「あかしや医師の会」第4回総会が開催され、院内外から60名の先生方にご出席いただきました。まず初めに、米倉正大あかしや医師の会会長(第1期生)から当院の初期臨床研修、あかしや医師の会の歴史についてのごあいさつ、続いて矢野右人名誉院長に人生100年時代の医師の生き方についてのメッセージをいただきました。

講演の部では、八橋副院長に「長崎医療センターの現況報告」と題して、当院の診療、経営の状況、昨年の耐性菌アウトブレイクへの取り組みについてご紹介いただきました。つづいて、古賀満明監事 嬉野医療センター名誉院長(第2期生)に会計報告とスピーチをいただきました。特別講演では、相模原赤十字病院院長の八十八川要平先生(第6期生)に「清和荘

の住人から… 我が医の歩み」と題してご講演いただきました。70年代の懐かしい写真や、プロ顔負けの自作のまんがを織り交ぜて、コミカルに時に熱く先生のこれまでの経験をおはなし頂きました。当院に(旧)あかしや荘よりも前に清和荘という研修医宿舎があり(現在の体育館付近に)、お話を通して当時の研修医の活気あふれる生活が目浮かぶようでした。最後に昨年のノーベル化学賞受賞者の吉野彰先生の言葉で有名になった「柔軟性と執着心」を忘れずに努力することを、後輩の我々にメッセージとしていただきました。閉会の辞は、八坂貴宏先生 長崎県対馬病院院長(第18期)に力強く会を締めくっていただきました。

来年は当院の初期研修が開始され50周年の節目にあたります。2021年8月7日に50周年記念式典を開催する予定としています。



TOPICS

春の医学生見学会



春の医学生見学会を開催いたします。お気軽にお問合せください。

【対象】 医学部4・5年生

【見学期間】 2020年3月3日(火)～3月27日(金)

※火曜～金曜日

但し土日祝日、下記日程は除外致します。

(17日～19日午後見学、25日終日)

【募集学生人数】 1日に5名程度。夜間見学は1日3名まで。

【応募期間】 見学希望日の前週月曜日までにお申し込みください。

【申込方法】 当院ホームページ(<http://nagasaki-mc.hosp.go.jp/>)をご覧ください。

雲仙普賢岳大火砕流で 被災した患者の 主治医となった研修医

国立病院機構長崎医療センター
副院長 八橋 弘

Vol.1 「1冊の本」

1冊の本がある。「なぜ、雲仙で死んだの。
—夫31歳、カメラマン 火砕流に吞まれたあなたに捧げる鎮魂歌(レクイエム)」(矢内真由美著、1991/10/1発刊、ベストセラーズ)

この本の巻頭には、このような紹介文が書かれている。「七百度もの炎熱をともなった大火砕流が山肌を駆け抜けた。1991年6月3日午後4時8分、長崎県島原半島の雲仙・普賢岳一。新幹線並みの速さで押し寄

せる火砕流は、警戒にあたっていた警察官、消防団員、そして白熱した取材競争を繰り広げていた報道関係者の命をも呑み込んだ。犠牲になった報道関係者のひとりにNHK報道局映像センターのカメラマン、矢内万喜男氏がいた。急報を受けた夫人、矢内真由美さんは、翌日長崎入りする。そして真由美さんは矢内氏の収容された国立長崎中央病院(当院の前々名称)へ駆けつけた直後より、矢内氏の容体、治療の模様、おりおりの感情をノートに詳細に書き綴った。本書は真由美さんによる、凄絶なまでの闘病の記録である。」

約200ページにわたって書かれたこの本の内容は、矢内万喜男氏が被災後に当院に搬送されて6月25日に亡くなるまでの約3週間の闘病記録であり、当院で行われた治療内容と担当医と主治医が家族に伝えた内容が、詳細に渡って記録、記載されている。私は矢内真由美さんとの面識はないのだが、調べてみると、その後NHK「きょうの料理」のシニアプロデューサーをされ、現在も食育に関する講演活動を全国的にされているようだ。講師紹介欄に「矢内さんは、29歳のとき、カメラマンだったご主人を雲仙普賢岳の火砕流で失い、以後、女手ひとつで1歳だった娘さんを大学生にまで育てた人です。」という一文を見出すことができた。

平穏な家族に突然襲ってきた災害、犠牲となった夫と残された妻と1歳の子。3週間は生存するも、最終的には救命することができなかった当院での医療と当時の医療。

当院での雲仙普賢岳噴火の災害救急医療に関する記録をたどりながら、雲仙普賢岳大火砕流で被災した患者の主治医となった研修医の言葉、それを受け止めた家族について紹介する。



看護部だより Vol. 18

「子どもの成長発達を支える！」

4A病棟看護師長 宅間 奈緒美

4A病棟は成育医療センターとして、総合周産期母子医療センター未熟児部門と小児科病棟の機能で運営しています。

未熟児部門では、産科部門とも連携し「赤ちゃんにやさしい病院」として、母乳育児支援にも力を入れています。また、小児科病棟では、てんかん患者をはじめとして、呼吸器や循環器疾患、外科系の手術を受ける子どもが多く入院しています。また未熟児部門を退院する子どもを対象に、退院前のお泊り保育を小児科病棟で受け入れ、双方の連携を強化しています。

「出生」という人生の始まりの時期にふれ、さまざまな発達段階の子ども達を看護の対象とする4A病棟では、子どもの成長発達を支えるためのケアや病棟行事などを積極的に取り入れています。

◆未熟児部門：さくらんぼクラブ◆

「NICUを退院した児及び入院中の児とその家族に対し、育児に関する情報交換や子どもの成長発達に対する想いを共有できる機会・場を提供する」ことを目的とし、毎年秋に開催しています。開催前年度に当院を退院した出生体重1500g未満の児とその家族を対象としており、例年50名程度に参加して頂いています。

参加した家族からは、「育児で困っていたことを相談できて良かった」「子どもの成長発達を長い目で見守っていきたいと思った」等の声が聞かれ、参加したスタッフからは、「子どもたちの成長を家族とともに喜ぶことができ、同時に自分達が実践した看護を振り返る機会になった」や「育児や子どもの成長・発達に対する家族の想いを知ることができた」という意見が聞かれています。



◆小児科部門：クリスマス会◆

小児科病棟では、毎年12月にクリスマス会を開催しています。“クリスマス”は小児期における大切な思い出となるため、入院中であっても、家族と一緒に楽しいクリスマスを過ごし、病気に立ち向かっている子ども達の安らぎの時間となること・健やかな成長発達に繋がることを願って、毎年企画しています。昨年度は、入院中の子ども達でクリスマスツリーを作り、なぞなぞ大会、スタッフによるハンドベルの演奏を行いました。クリスマス会の終盤には、サンタさんが登場し、クリスマスプレゼントをひとりずつに渡していきます。その時の子ども達のワクワクした嬉しそうな笑顔!“クリスマス会”という病棟行事が子ども達にとって、とても大切なものであることを実感します。

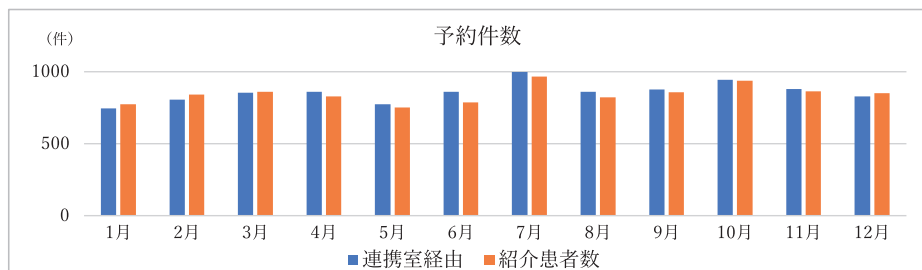
4A病棟では、これからも「子どもの成長発達を支えるケア」を大切に、子どもとその家族に関わっていききたいと思っています。



地域医療連携室からのお知らせ

2019年1月から12月の実績報告

日々のご紹介ありがとうございます。2019年のご紹介状況をご報告いたします。
2020年もどうぞよろしくお願いいたします。



◆紹介元病院所属医師会別

医師会	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (%)
大村市医師会	449	467	492	476	433	458	570	482	501	564	458	442	5,792 56.2%
諫早医師会	147	169	179	173	174	212	192	173	167	171	242	196	2,195 21.3%
南高医師会	52	46	54	44	45	48	57	50	51	55	55	59	616 6.0%
島原市医師会	36	46	38	48	52	59	61	49	63	56	37	39	584 5.7%
東彼杵郡医師会	17	22	28	28	19	25	29	30	21	22	20	21	282 2.7%
その他	45	57	65	91	53	58	91	79	73	77	70	74	833 8.1%
計	746	807	856	860	776	860	999	863	876	945	882	831	10,302

◆紹介先診療科別

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
消化管内科	43	49	54	42	34	39	55	46	39	55	47	48	551
肝臓内科	35	24	43	42	36	41	50	43	33	43	33	41	464
呼吸器科	33	22	36	33	29	21	29	33	27	33	29	32	357
総合診療科	47	37	47	45	41	63	65	49	54	53	46	59	606
循環器科	24	21	25	28	24	21	32	28	31	30	29	37	330
神経内科	3	10	13	13	10	21	20	19	15	20	19	13	176
血液内科	9	15	13	7	19	11	13	19	14	12	11	11	154
内分泌代謝科	13	22	19	19	24	22	23	15	20	20	15	18	230
腎臓内科	9	8	15	16	8	12	21	11	15	15	14	19	163
リウマチ科	5	2	3	11	8	4	7	4	6	7	5	5	67
眼科	50	56	57	58	64	77	73	67	61	63	68	62	756
産婦人科	58	69	53	77	65	58	72	58	68	70	67	66	781
耳鼻咽喉科	54	56	68	59	54	67	62	58	55	52	49	55	689
外科	38	47	47	46	38	50	59	44	57	47	50	41	564
呼吸器外科	8	6	5	2	6	5	3	2	4	4	3	6	54
皮膚科	17	32	37	40	34	37	40	39	29	40	31	30	406
精神科	4	7	3	7	4	2	8	6	8	8	9	6	72
脳神経外科	25	26	24	39	24	36	36	25	33	33	27	33	361
整形外科	38	29	31	31	25	19	27	19	29	32	27	23	330
泌尿器科	37	33	30	39	27	22	39	46	24	40	47	36	420
小児科	23	34	31	39	33	35	42	33	30	33	45	34	412
形成外科	26	37	35	40	33	31	40	33	44	32	63	27	441
心臓血管外科	12	17	11	11	14	13	19	11	12	10	16	3	149
放射線科	0	2	1	0	2	0	0	1	1	1	1	0	9

理念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実にに行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 絶対に断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力を貢献する